SAIN

健康な住まいと
暮らしのサイン
2023 Winter
79

ひとつだけのこの星に雪光り

KAIKEN

はじめのSAiN

森の巨人たち

屋久島の縄文杉

鹿児島県熊毛郡屋久島町◉林野庁選定 国有林樹木百選から

「杉」の名木を林野庁選定「森の巨人たち百選」の中から紹介している「はじめのSAiN」。

3回目は、本土最南端・鹿児島県佐多岬の南南西約60㎞に位置する屋久島の「縄文杉」です。

1993年に白神山地とともに日本初の世界自然遺産として登録された屋久島では、樹齢千年を越える杉は「屋久杉」と呼ばれます。この屋久杉の中で、標高1300m、樹高25・3m、胸高周囲16・4mを誇り、推定樹齢2000年から7200年ともいわれる、確認されている中で最大の老大樹が「縄文杉」です。その名の由来は、「縄文時代から生きている」説と、「幹の造形が縄文土器に似ている」説とがあるそうです。

厳かで神秘的な縄文杉の姿は、私たち人間の一生の時間軸とは異なる、永遠の夢の時のような、遥かな時の流れがあることを伝えてくれます。

SAiN

2023 Winter 79

サイン2023年冬号をお届けいたします
ゆく年とくる年の境目をまたぐ季節のなかで
ふり返る過ぎ去ったもの　見晴らすやがて訪れるもの
はじまると終わりが育まれて　終わるとはじまりが生まれます
新しい年の世界が　どうか穏やかでありますように

SAiN 79号 目次

1 はじめのSAiN
3 ［SAiN特集］ OPEN HEART　こころひらける暮らし　沖縄篇4
5 空気がうまい家 全国体感録 懐かしい未来に暮らす 古民家STYLEモデルハウス
9 施主 渋谷浩一郎様エッセイ 四季めぐる空気がうまい家
11 おもやの食卓 冬の旬食材 ブロッコリー
14 SAiNエッセイ 「らしさ」を磨いて伝える力に変える
15 住まいと健康のいい関係 「無添加」というだけでは「健康住宅」と言えない？
16 カイケンブランド 健康自然建材
17 こだわりプレゼント・編集ほのぼの後記

COVER STORY

「時を超える価値のある暮らし」というテーマでお届けしている『SAiN』。2023年冬号の表紙は、冬の旬食材「ブロッコリー」と、1950年代にイギリスで作られたシルバープレートのバスケットです。
主に真鍮素材に銀メッキを施した品で、銀の高級感を残したまま、使いやすく手に入れやすいものとして人気を博した「Silver Plate」。
愛らしいシルエットに、年月を経て生み出されたくすんだ風合いや、繊細でモダンな透かし細工が魅力的です。
あたたかい食事と、人の手と時のぬくもりが伝わるアイテムで、ほっと和める冬のひとときをお過ごしいただければと思います。

『SAiN』のお申し込みなどはWEBサイトで。
https://www.e-kaiken.com/sain/
©KAIKEN CORPORATION

OPEN HEART

こころひらける暮らし

沖縄県中頭郡読谷村 S様

沖縄篇 vol.4

生きている自然素材を愛し、心を開いていろいろな物事や考え方をリスペクトして共存しようという「OPEN HEART」な暮らしをご紹介している特集企画も、今回がひと区切りとなる4回目です。
沖縄本島中部、中頭郡（なかがみぐん）の読谷村（よみたんそん）にお住まいのS様のお住まいと暮らし、そしてその素敵な活動とは？

木の香りがいっぱいに広がる玄関。

沖縄でご主人のお母様が一人暮らしをされていたこともあり、関東から移住されたS様ご家族。「空気がうまい家」をお知りになったのは、お母様の紹介で出かけられた、SAiN77号のこの特集でご紹介したM様が、読谷村のサロンで開いていたヨガ教室でした。ヨガとサロンの空間があいまったあまりの気持ちよさに、「初めて行っていきなり寝てしまいました（笑）」とのこと。

2023年1月に誕生した、2階建て35坪のS様邸。

M様のヨガ教室に通われるうち、このサロンと同じ自然素材を使ったお家が建てたいという思いがつのり、ラムハウジングさんに連絡されました。

ヨガ教室のサロンの心地よさを体感されていたS様とお母様は、他で建てることはまったく考えられなかったそうで、ご主人も、さつま工場のコンセプトハウスに体感宿泊され、「これに住めるなら他は絶対ない」と、家づくりはとんとん拍子ですすんだそうです。

「この建材に出会わなかったら新築しようって思ってないね」と、ご夫婦で話されていたというS様。ご縁がつながって願いが育まれ、理想の住まいと暮らしをかなえられることになりました。

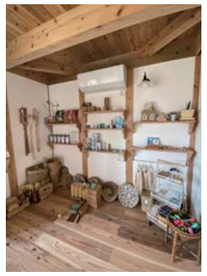
木と漆喰のバランスが絶妙で、居心地も雰囲気も素晴しいLDK。

この木材は、人もつなげてくれるんだなーって思います。

（写真右から）沖縄らしいペンダントライトなど、S様お気に入りのアイテムが素敵なキッチンで、美味しいコーヒーをごちそうになりました。キッチン奥の北側の高い窓から、優しい自然光があふれます。リビングスペースの右奥がエシカルショップ「macoro」。音響熟成木材のうづくりフローリングが気持ちいい階段。お子様たちも自然素材のお部屋に大満足とのこと。

2階建て35坪のお住まいには、S様のこだわりがたくさんつまっています。お子さんたちの足音が気になってもいいように、2階の子ども部屋の階下には水まわりとご夫婦の寝室を配したり、北側に明かり取りのFIX窓を設けて住空間を明るくしたりした、間取りプラン。「服をたたまない家」を実現した、「掛ける収納」。お母様に気を配った2つのトイレ…などなど。とくに、やわらかい自然光で空間を満たす北側のFIX窓の高さと明るさは、まるでカフェのような素敵な雰囲気を生み出しています。高い天井も開放的で、「毎日、木が見えて最高なんですよ。寝る時も寝室の天井の木を見て、うっとりします。毎日感動です」とS様。お子さまたちもこの家が大好きで、毎日「新居サイコー」と言っているそう。

コンクリートの賃貸アパートだった以前のお住まいとくらべ、いちばん変わったのは「冬でもほんとにあったかい」ということ。心地いい快適さが、S様ご家族の暮らしを健やかに彩っています。



（写真右から）キッチンから見渡すリビング・ダイニングは開放感たっぷりです。春や秋の穏やかな日や夏の夕暮れどきなど、心地いい時を過ごせそうな縁側ウッドデッキ。沖縄は冬頃がいちばんの野菜づくりの時季なのだそうです。「macoro」の看板と音響熟成木材のアップサイクルアイテム。ショップには素敵な品々が揃います。ラムハウジングの担当者さんと笑顔で。

Sさまはお住まいの一部屋とWEBを使い、「macoro」という環境問題や社会問題に配慮した「エシカル」なアイテムのセレクトショップを運営されています。また、ご縁のある沖縄のお仲間の方々と一緒に、音響熟成木材のアップサイクルプロジェクト「アースフル・ハーモニー」でも活動されています。

自然を敬い、その価値を伝えていくS様たちの取り組みは、私たちのこれからに、大切な気づきを与えてくれることと思います。

S様、ありがとうございました！
今後も活動をフォローさせていただきます。

SAiN WEB版では、ここではお届けできなかった内容など、さらに深掘りしてご紹介します。どうぞお楽しみに。

Earthful Harmony インスタグラム

macoro WEBサイト

私たちの空気がうまい暮らし

Enjoy More Story

◀「私たちの空気がうまい暮らし」では、それぞれの暮らしをご紹介しています。こちらでは、S様のエシカルショップ「macoro」や「Earthful Harmony」などの活動も含めお届けいたしますので、どうぞご覧ください。

懐かしい未来に暮らす 古民家STYLE

鹿児島県 ═ 古民家STYLEモデルハウス

2023年秋、鹿児島県姶良郡湧水町に誕生した空気がうまい家の「古民家STYLE」モデルハウス。無塗装で古材のような風合いを生み出した音響熟成木材「黒」独特の品と質を存分にいかした、懐かしいのに新しい、心ほどける居心地の住まいです。

懐かしい日本家屋の雰囲気を残しつつ、モダンにアレンジされた外観デザイン。音響熟成木材と幻の漆喰という質感が異なる二つの黒の自然素材が調和し、落ち着きと品のある雰囲気を生み出しています。

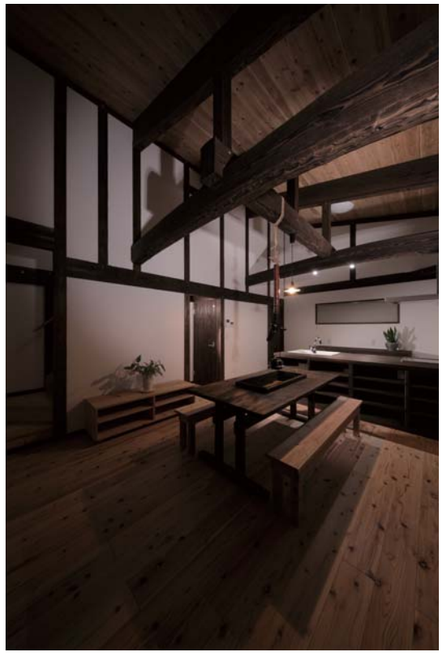
無垢・無塗装の自然そのままの色をいかした引戸が際立つ玄関。中へ入るとほっとする木の香りが満ち、足元は木の葉型の音響熟成木材タイルが埋め込まれた土間漆喰のたたき。地窓を配した土間は和室にもつながり、障子を開くと縁側のように腰掛けておしゃべりができます。

時を超える癒しを生む 音響熟成木材「黒」

歴史を経てきた古い日本家屋は、心がほっと落ち着き、深い安らぎを感じることができます。「古民家STYLE」は、そんな心和む情緒を新築住宅でも感じていただき、ご家族とのかけがえのない日々を充実してお過ごしいただける住まいになることを願って生まれました。

長い歳月をかけて囲炉裏の煙で燻されたような風合いを、独自の方法により無塗装で生み出した音響熟成木材「黒」。

特別な自然素材の住空間は、心豊かな懐かしい未来の暮らしをかなえます。



引戸でスペースを無駄なく使え、天然アロマも気持ちいい収納空間（写真右上）。清々しい畳の香りとやわらかい光で心和む和室（写真右下）。床や階段は足元に心地いい「うづくり」仕様（写真中上）。温泉気分に毎日ひたれるバスルーム（写真中下）。居室にも「地窓」を設け、外の緑を楽しめます（写真左上）。自然素材の調湿作用で水まわりも快適（写真左下）。

風格のある音響熟成木材の太鼓梁が、空間の品と質を高めるLDK。そこには、木材の「黒」と漆喰の「白」が調和した、時の流れに左右されない普遍的な魅力が息づいています。「黒」仕様の対面型キッチンは、味のあるレトロな雰囲気でありながら最新の設備を組み込むことができます。「古民家STYLE」は、昔と今、古来と最新が融合した空間でもあります。

懐かしい時を あたらしく生きる

「試しに電燈を消してみることだ」と『陰翳礼讃』で書いたのは、明治・大正・昭和を生きた作家、谷崎潤一郎。

「秘すれば花」と『風姿花伝』で書いたのは、室町時代の能楽師、世阿弥（ぜあみ）。

なるほど確かに、暗がりの中でこそ際立つ美しさや、秘めておかなければ失せてしまう花のような価値もあります。

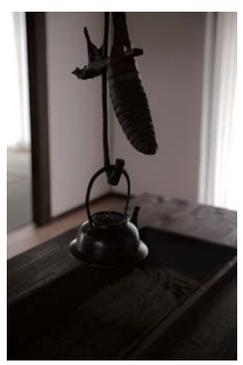
古来の日本家屋に感じる品の良さには、そんな奥ゆかしさを生む「ほの暗さ」が、一役買っているのかもしれません。

もともと日本の住まいは、木、竹、土、草、石など地元の風土が育む自然素材で生み出されてきました。

「古民家ＳＴＹＬＥ」で体感する「懐かしさ」は、古材のような「黒」が持つ雰囲気だけではなく、自然の命が生きた素材そのものの品と質に宿っています。

ひとつひとつが唯一無二で、オンリーワンの表情を持つ無垢・無塗装の木材の表情や、その命をいかす職人技の木組みなど、「古民家ＳＴＹＬＥ」の暮らしの中では、自然をリスペクトしてきた伝統的な人の知恵と技術を、いつも目にすることができます。

それはまた、目には見えない「穏やかなぬくもり」や「深い安らぎ」を感じさせてもくれるはずです。



未知の将来に向けて新しいビジョンを描くとき、過去の歴史に思いを馳せ学ぶように、ご家族の新しい時を生きるために、心と体を潤し癒す「古民家ＳＴＹＬＥ」の懐かしさがあります。

過ごすほど、使うほどに「わが家」だけの味わいを増していく自然素材の経年変化が、この住まいの本当の価値を証明してくれるのだろうと思います。

「空気がうまい家」の施工例はＷＥＢサイトでもご覧いただけます

施主様からの特別寄稿
四季めぐる
空気がうまい家

文◉渋谷浩一郎様

凍える野菜が教えてくれる暖かい暮らしのヒント

京都府宇治市で空気がうまい家にお住まいの渋谷様ご家族。四季めぐるその暮らしを、施主様ならではのエッセイにしてお届けいたします。

冬が旬の大根、美味しいですよね。やっぱり、おでん？ ぶり大根？

「今年は、秋がない様な気がしますね。」

猛暑が続いたかと思えば、急に寒くなった時期がありました。ところが、こんな挨拶をした翌週からは、ポカポカと暖かくなり、「どのタイミングで冬支度をしたらいいんだ？」なんて思った方も多いでしょう。

そんな十一月が終わりに近づくと、それなりに冬らしくなってきた様に感じます。特に、北海道の知人から「雪がたくさん積もった」なんてお知らせをいただくと、ようやく「冬支度をしないといけないなぁ…」と、重い腰をあげました。

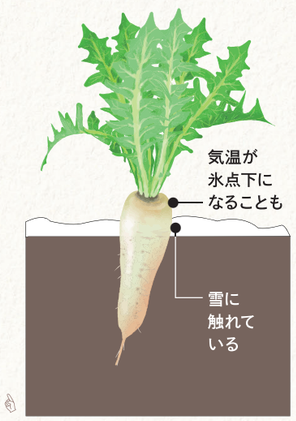
今年の私の冬支度のテーマは「冬も暖かい気分になれる家」です。ちょっとした作業をするだけで、暖かい気分が味わえるので、参考にしていただけたら幸いです。

なぜ、冬でも野菜の水は凍らないの？

冬の知らせがあるころに「なぜ、冬でも野菜の水分は凍らないの？」という疑問をもっていたことを思い出します。

例えば、冬野菜の代表「大根」は非常に水分が多い野菜ですが、雪が積もった畑の中にあっても、シャーベット状になることはありません。「雪の下とは言っても土の中は暖かいからじゃない？」なんて考えたこともありましたが、それでも説明がつかない所があります。

それは、土の上の部分（大根の茎）の部分は、しっかりと雪や氷点下の空気に触れていますから、氷点下の朝に凍ってしまうのでは？と考えられますが、全く、凍ってしまう気配すら感じられません。



もちろん、この様なことは、大根に限った話ではなく、私が住んでいる京都程度の冷え込みでは、他の植物の水分が凍ってしまうことはありません。

その一方で、京都でもあまりにも冷え込みが厳しいと、「水道管の凍結に注意しよう」なんて言われるわけですから、ますます不思議に感じるのです。

植物の水分が凍結しない理由

そこで、「なぜ、植物の水分は凍結しないのか？」と色々な人に質問したり、調べてみたりすると、面白いことが分かりました。

❶もし凍結してしまうと生命が絶たれる

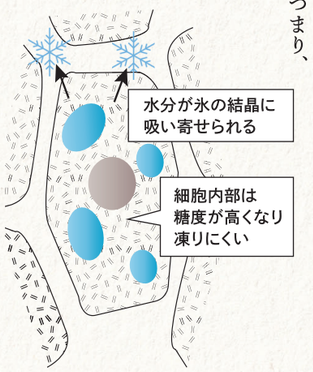
水道管が凍結によって破裂してしまうのと同じで、植物の内部の水分が簡単に凍結してしまうと、水分が膨張して細胞が破壊されてしまいます。それでは、厳しい寒さに耐えることができないので、簡単には凍らないような仕組みをもっているのではないか。という考えです。

この考え方には、納得できる人も多いのではないでしょうか。ただ、「凍らないような仕組み」とは、どんなものかが気になるところです。

❷植物の水分が凍結しない仕組みとは？

植物の細胞は、動物とは全く違ったつくりをしていて、細胞膜の外側に細胞壁があります。こんな言葉を書くと難しい勉強の話の様になってしまいますが、簡単に言うと、細胞膜の外側を敢えて凍らせて、肝心な部分は凍らないようにしているようです。

つまり、



●図の様に細胞の外側を凍らせる。

●凍った部分には、自然と水分が引き寄せられるので、細胞内部は、自然と糖度が高くなり、簡単には凍らない。（砂糖水は0℃で凍らない）

●凍ってしまった細胞膜の外側は犠牲となるが諦める。

こうして、大切な細胞膜内部は傷つかないという形で生命を守っているのです。

植物は思った以上に、複雑な技術で自分の身を守っていることがよく分かりました。と、同時にこんなに凄いことはできないけれども、自宅の水道にちょっとした工夫を施すことができそうだと思いついたのです。

誕生！「冬も暖かい気分になれる家」

真冬の朝、水道の蛇口を開けるのは辛いものです。

いくら給湯器がついているとは言え、温かいお湯が出るまでには、それなりの時間が必要になります。最初は、水が冷たいので警戒しながら水を触り、「冷たい！」なんて感じることもよくあることだろうと思います。

そこで、植物も細胞の外側に工夫をしているのだから、我が家の水道管の外側にも何か工夫ができるのではないか？と思ったのです。

そして、実際に工夫をしてみると…これが意外と快適だったのです。

試してみたことは簡単なことです。

●ホームセンターで保温チューブを購入

保温チューブは、水道管などに巻き付けて使う保温剤のことで、いろいろなタイプがありましたが、写真の様なもの（①）を選びました。（2mで250円くらい）

●床下に潜って保温チューブをセットして（②）テープを巻く（③）

今回は、給湯器から洗面化粧台にかけてお湯が通るパイプに保温チューブを巻き付けてみました。もちろん、最初から保温チューブは巻いてありましたが、冬用のお布団を掛けるようなイメージで、保温チューブを巻き付けていきました。

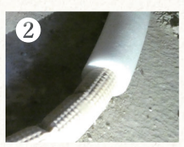
結果は…

今年は、まだまだ朝の気温が冷え切っていませんが、温かい水が出るまでの時間がかなり短縮されました。

ちょっとしたことですが、少し待てば、びくびくしながら水を触る必要がなくなったので、幸せを感じています。

と同時に、床下での窮屈な作業をすると広々とした部屋で普段生活できていることがどれだけ有難いことか…そんなことを改めて実感しました。

植物は、こんな保温チューブよりもはるかに優れた機能をもっているので、内部はかなり快適なんじゃないかなぁ…と思います。



◀こちらでも渋谷さんのコラムがお読みいただけます
［カイケン 自然発信基地］で検索

季節を味わう

おもやの食卓

なんでもいつでも揃う
いまこの時代に、
あらためて「旬」のものを
見直してみたいと思います。
旬のものは、体にいいし、
なんといっても、
みんなでおいしく
いただけますから。

冬の旬食材 ブロッコリー

野菜の中でもトップクラスの栄養を誇る、ブロッコリー。食物繊維、ビタミン、カリウムや鉄分などのミネラルなどをたっぷり含んでいて、とくに食物繊維とビタミンCの含有量は抜群です。

調理もしやすく、クセも少なく、さっと茹でるだけで美味しくいただけ、栄養いっぱいのブロッコリー。

キャベツや白菜や小松菜や水菜などと同じ「アブラナ科」の野菜で、あの小さな緑色のつぶつぶは、ひとつひとつが花の蕾（つぼみ）です。

私たちが美味しくいただいているのは、小さな蕾が集まった「花蕾」ということなのですね。

美味しいブロッコリーを選ぶときのポイントは、緑が濃く鮮やかで、蕾が隙間なくぎっしりとつまっていること。蕾が黄色くなっているものは、鮮度が落ちていて味や風味もいまひとつとなるので、ご注意を。

白と緑の美味しい一皿で冬の元気ほかほか

今回のレシピは、ブロッコリーと鶏もも肉を使った「シュクメルリ」。

「シュクメルリ」は、黒海とカスピ海に挟まれ、5000メートル級の山々が連なる大コーカサス山脈の南麓に位置する南コーカサス地方の一国であるジョージア（グルジア）の、人里離れたシュクメルリ村が発祥といわれる郷土料理です。

焼いた鶏肉を、にんにくの風味をきかせたホワイトガーリックソースで煮込んでつくります。にんにくたっぷりの濃厚なソースに、ブロッコリーの美味しさが際立ちます。

お好みのスパイスでアレンジしてみても楽しめ、ほかほかの元気がわいてくる、冬にぴったりの一品です。

料理　柴田 佳世子

福岡県福岡市生まれ。京都女子大学短期学部家政食管理卒業後、同大学の家政学部食物栄養科研究室勤務。福岡市のフードプロデュース会社を経て、2005年に独立。レシピ作成、フードコーディネート、料理教室、イベント、レストランなどへのメニュー提案、食育、講演活動など、食と料理の様々な分野で幅広く活動中。

Cooking example

季節を味わう

おもやの食卓

鶏肉やチーズの旨味にからむコクのあるソースに、ブロッコリーのフレッシュな味が相性抜群。ほのかに香るスパイスも食欲をそそります。

ワインと煮込みと絵画と映画

シュクメルリのふるさと「ジョージア」は、かつて「グルジア」と呼ばれていましたが、これはロシア語にちなむそうで、英語にちなんだのが「ジョージア」。ジョージア本国での呼称は、「サカルトベロ」なのだそうです。アジアとヨーロッパの十字路、シルクロードの要所でもあったジョージアは「世界最古のワイン生産地」としても有名で、８０００年も前からワインがつくられていたとのこと。知る人ぞ知る画家ピロスマニや映画監督イオセリアーニなど、この冬はジョージアのワインと料理とアートを楽しむのも一興です。

母家

ブロッコリーのシュクメルリ
レシピはウェブでご紹介しています

https://e-kaiken.com/sain/omoya/

SAIN ESSAY

「らしさ」を磨いて伝える力に変える

普段当たり前に感じていることでも、人それぞれ着眼点が違うので賛否はあって当たり前、物事というのは見る角度によってカタチを変え、自身では気づけなかった改善点の発見やポテンシャルを導き出すきっかけに繋がっていくものだと思います。

その上で「自分らしさ」をブレずに継続させ、その「らしさ」に固執するのではなく、波長の合う方々に、よりシンプルに共感いただけるように、情報の厚みを増し、整理し、表現方法をブラッシュアップしていけるように、自分本来のポジションから遠ざかって迷走しないための強い意志が必要だと感じます。

様々なことに広い視野を持って向き合うことが可能性を広げてくれる。自分たちが取り組んでいることやビジネスのカタチや方向性が、世の中にはどのように映るのだろうか？ 思い切って新たな一歩を踏み出してみることで、これまで見ることの出来なかった景色に出会えることがあります。

変化には葛藤がつきものですが、その新しい景色から得られる情報や経験をまずは一度吸収してみて柔軟に受け止めてみる。

そしてアクションを起こすかどうかは、そのあと、自分の道とどうリンクするのか、させることができるのかを判断材料にしていけばいい、そう思います。

自分が大切にしている想いやコンセプトを未来に残し、そして繋げていくための方法は決して一つではありません。

変化することに葛藤があっても、「らしさ」を貫いたまま、時代に沿った表現の仕方は、人やモノ、場所や環境、その出会い如何によって選択肢は無限に広がっていくものだと思います。

経験として積み重なった思いは自分自身の生き方の一部となり、成長の糧へと変換され、それが伝える力へと変わっていく。

「自分らしさを」を磨き、その「らしさ」に備わった価値を生涯大切にしていきたいですね。

浦上 日章
Text by
Urakami Nissho

無添加というだけでは健康住宅と言えない？

無添加という言葉を聞いて皆様はどのように感じられますか？「添加物が入っていないので体に良く健康になれる」と感じられる方がほとんどではないでしょうか。実際、添加物が多く使われているより、出来る限り入っていないほうが体に良いことは間違いないでしょう。しかし「無添加」という表示は、添加物が一つでも入っていなければ、無添加として商品が出せるという曖昧な定義のもとにあります。

例えば、合成着色料を使用していない商品であれば、防腐剤が入っていてもその商品は無添加商品といえるのです。食品はもちろん、石鹸やシャンプー、化粧品など私たちが口に入れるものから肌に直接ふれるものに「無添加」という言葉を目にしていることでしょう。その中で「全成分無添加」という商品、ましてや原料もすべて無添加という商品などは見ることは少ないと思います。いえ、ほとんどないでしょう。では、全ての原料・成分が無添加であれば安全なのでしょうか？

また、私たちが日々住まう家を考えたときはどうでしょうか。やはりすべて無添加とは言えません。住宅の内部を可能な限り木や漆喰などの自然な材料で作ったとしても、お風呂、キッチン、トイレ、サッシ、換気扇、照明などの設備機器は化学建材になるでしょうし、木の表面は何か塗っているのではないか、また塗っている場合、その塗料は安全なのか、使用されている接着剤・防蟻剤は大丈夫なのかなど。さらに木の原産国はどこなのか？　素材は天然そのままなのか？　内壁の材料は？　などなどたくさんの疑問が生まれてくるでしょう。

また、全くの自然のものであっても、木を糊で固めた集成材であっても、海外から入ってきて薬品づけになっていても、表面に何か塗ってあっても、防腐剤や糊が使用されている珪藻土も、自然素材がひとつでも入っていれば、その商品は全て自然素材という枠の中にくくられてしまいます。家においては「自然素材」＝「無添加」というイメージも強いでしょうが、どちらにしても定義は曖昧なのです。

それでも出来る限り自然に近い無添加といえる家を建てたとして、安全で健康であるといえるのでしょうか。花粉症やアトピーなど、何かしらのアレルギーを持つ人口は3分の1以上ともいわれ、シックハウス症候群や化学物質過敏症も増えている現在は、食べ物や水、日用品だけでなく、家づくりにおいても家族や自分の体のために健康を考えている方が多くなっています。

ビニールクロスが主流だった壁も、和紙や漆喰・珪藻土などの呼吸する素材が増え、合板使用の新建材から天然無垢材の床が増え、化学建材から発生するガスをなくそうと無添加で健康的な素材が選ばれるようになりました。しかし、本当の健康住宅かどうかの判断も難しいし、無添加なだけでは健康な家とは言い切れないのです。

生活をしていく上で必要なもの、家具・家電・衣類などの生活必需品なくしては、ほとんどの方が不便と思われることでしょう。では、家具・家電・衣類などの生活必需品から化学物質のガスが放散していることはご存知でしょうか？　それらを無添加の家にいれてしまうとどうなるか…。もう答えはお分かりですね！　そうです、無添加の家は放散されたガスを吸収してしまい、今までと同じ不健康な家になってしまうのです。

では、どうすれば本当に健康な住宅をつくることができるのでしょうか？　そのためには、様々なものから放散されているガスをきれいな空気に変えていく必要があります。そうすることで、本当に健康な住宅が生まれるのだと考えています。

私たちが理想とする「きれいな空気」とは、自然の力が生み出す空気です。森の緑の中や海を見晴らす砂浜で、私たちは「空気が気持ちいいなあ」と感じます。それは、日頃はつい忘れてしまっている「人も自然の一部」ということを思い出すから、なのだろうと思います。

自然の中で感じる「気持ちのいい空気」を住空間でも感じることができたなら、いちばん居心地のいい家になるのではないだろうか…。そんな思いから「家は、空気で建てる」という発想が芽吹き、自然の息吹が香る気持ちのいい空気の中で、ご家族の心と体に幸せが満ちていき、いつまでも心地よい日々をお過ごしいただける「空気がうまい家」が生まれました。

私たちは、いつまでも心地いい空気環境の住まいで、ご家族が心も体も健やかにお過ごしいただける暮らしを、ご提案していきたいと考えています。

KAIKEN BRAND

「空気がうまい家®」を生みだすカイケンの健康自然建材

幻の漆喰®

天然の空気清浄器

有明海の赤貝や銀杏草（海藻）などを使った完全天然素材の壁材。光と熱に反応する独自の光熱触媒作用を持ち、半永久的に室内の化学物質や有害物質を吸着・分解して住空間の空気を清浄に保ちます。ホコリも減ってお掃除もラクに。

幻の漆喰®

ピュアケアウォール®

幻の漆喰を塗りやすくモダンに

鉱物を原料とした天然素材を使用し、光熱触媒の技術で生成。原型となる幻の漆喰と同じく、化学物質の分解力に優れ、さらに今後の左官職人不足にも対応できるよう、塗りやすく仕上げています。

幻の漆喰® そとかべ

光熱触媒作用で
「経年美家」を実現

外壁専用の幻の漆喰「そとかべ」は、光熱触媒技術を利用して汚れやすい外壁材をクリーンに保ちます。耐水・耐熱・耐変色・耐緑色化および耐カビ試験により、強靭さや耐久性を証明。時と共に味わいを増す「経年美家」の住まいを実現します。

音響熟成®木材

免疫力をアップする木「財」

南九州産の杉を、クラシック音楽を聴かせながらじっくりと常温で音響熟成したこだわりの木材です。木が本来持っている油分やエキスが残り、防菌・防カビなどの作用に加え、人間の免疫力をアップする働きがあるとされています。

音響熟成®木材

うづくりの床

素足にやさしく心地いい床材

「うづくり」とは、木の年輪を浮き上がらせる加工法。自然な凹凸が足裏を心地良く刺激して血行を良くし、冷え症の方もご安心頂け、こどもたちの扁平足予防にも効果的です。また、凹凸が室内の光を拡散して目に優しく、眼精疲労を和らげます。

竹炭入り清活畳®

さわやかで清々しい
健康的な空間に

６畳２間でドラム缶１本分の竹炭が入った「清活畳（せいかつだたみ）」。竹炭は化学物質を吸着する能力が備長炭よりも優れるとされています。い草の爽やかな香り・肌ざわりが、すがすがしい空間をつくります。

最新情報はWEBサイトで

自然を楽しみながら暮らしたい方、自然素材から生まれる住むほどに愛着がわく心地いい家づくりをお考えの方、花粉症やアレルギー、シックハウスなどでお悩みの方、ぜひご覧ください。

アクセスはこちらから ☞
https://www.e-kaiken.com

自然を楽しむ暮らしの知恵をみんなでシェア

自然に学ぶ　自然を楽しむ
自然発信基地

それぞれのみなさまの暮らしをご紹介

私たちの空気がうまい暮らし

SAiN 読者アンケート

ぜひアンケートにお答えいただき、プレゼントご応募ください！

ご愛読いただきありがとうございます。これからも読者の皆様にますます喜んでいただける情報誌『SAiN』にしていくために、どうぞアンケートにご協力をお願いいたします。お名前・生年月日・性別・ご住所・TEL・職業・『SAiN』裏表紙に記載されている「正規取扱店名」をご記入の上、アンケートにお答えいただき、下記宛先までご応募ください。下のアンケート専用ハガキ・WEBでもご応募できます。

Q1 『SAiN』を知ったきっかけは？
①セミナー　②見学会・展示会　③DM　④友人・知人からの紹介　⑤その他

Q2 「健康住宅」のイメージは？

Q3 いちばん印象に残った記事は？（番号をご記入ください）
①表紙　②P1. はじめのSAiN　③P2. 目次　④P3・4. [特集]OPEN HEART こころひらける暮らし 沖縄篇4　⑤P5・6・7・8. 全国体感録（鹿児島県 古民家STYLEモデルハウス）　⑥P9・10. 施主 渋谷浩一郎様エッセイ　⑦P11・12・13. おもやの食卓　⑧P14. SAiNエッセイ　⑨P15. 「無添加」というだけでは「健康住宅」と言えない？　⑩P16. KAIKENブランド　⑪P17. こだわりプレゼント　⑫P17. 編集ほのぼの後記　⑬裏表紙　⑭その他（　　）

Q4 役に立つと思われる記事はどれですか？（「Q3」の番号よりお選びください）

Q5 今後取り上げてほしいテーマ

Q6 『SAiN』へのご意見・ご感想

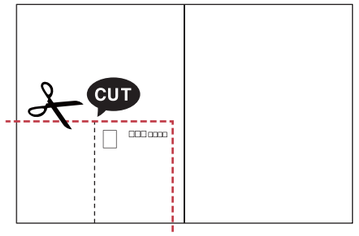
Q7 ご希望のプレゼント番号とプレゼント名（第1・第2希望まで）

ご応募締切 2024年2月18日 当日消印有効

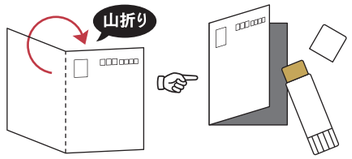
●ハガキ応募先 〒814-0171 福岡市早良区野芥2-27-5
カイケンコーポレーション（株）「SAiN」冬号vol.79 プレゼント係
●WEB応募先アドレス ＊スマートフォンは右のバーコードから☞
https://fkfb.f.msgs.jp/webapp/form/21221_fkfb_2/index.do
※ご当選者の皆様の発表はプレゼントの発送をもって代えさせていただきます。

アンケート専用ハガキの使い方

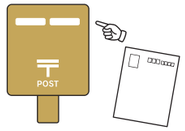
1. ハガキにご記入いただいた後、切り取り線に合わせて、ハガキを切り取ります。



2. 切り取ったハガキを山折りにし、中面にのりをつけ、貼り合わせます。



3. 記入漏れがないか確認いただき、郵便ポストへ投函ください。



キリトリ

（フリガナ）　生年月日　年　月　日
お名前　性別（男性・女性）
ご住所　〒
お電話
Eメール　メールマガジン配信 □希望 □希望しない
ご職業　会社員・公務員・自営業・学生・主婦・その他

『SAiN』を知ったきっかけは？（番号を○でお囲みください）
① セミナー　② 見学会・展示会　③ DM　④ 友人・知人からの紹介
⑤その他（　　）

「健康住宅」のイメージは？

いちばん印象に残った記事は？（番号を○でお囲みください）
①表紙　②P1. はじめのSAiN　③P2. 目次　④P3・4. [特集]OPEN HEART こころひらける暮らし 沖縄篇4　⑤P5・6・7・8. 全国体感録（鹿児島県 古民家STYLEモデルハウス）　⑥P9・10. 施主 渋谷浩一郎様エッセイ　⑦P11・12・13. おもやの食卓　⑧P14. SAiNエッセイ　⑨P15. 「無添加」というだけでは「健康住宅」と言えない？　⑩P16. KAIKENブランド　⑪P17. こだわりプレゼント　⑫P17. 編集ほのぼの後記　⑬裏表紙　⑭その他（　　）

役立つと思われる記事は？☞上の質問の回答番号よりお選びください＜　＞

今後取り上げてほしいテーマ

『SAiN』へのご意見・ご感想

ご希望プレゼント番号とプレゼント名をご記入ください　第1希望　第2希望

※アンケートにご協力ありがとうございました。ご当選者様の発表は発送をもって代えさせていただきます。

山折り

料金受取人払郵便
城南局承認
309
差出有効期間 令和4年4月1日から令和6年3月31日まで ＜切手不要＞

郵便はがき

814-0190

福岡市早良区野芥2-27-5
カイケンコーポレーション（株）

『SAiN』冬号vol.79 プレゼント係

ご愛読頂きましてありがとうございます。
アンケートにご記入いただきましてご応募ください。

この『SAiN』の裏表紙に記載されている正規取扱店名を下記にご記入ください☞

※お預かりした個人情報は、カイケンコーポレーション（株）と正規取扱工務店からのイベントや見学会のご案内、本やプレゼント発送、アンケート集計以外には利用いたしません。尚、お客様の個人情報は厳重に管理し、第三者に譲渡することはございません。

キリトリ

こだわりプレゼント

※ご応募締切 2024年2月18日（日）

1 音響熟成木材 手づくりテーブルセット

音響熟成木材手づくり家具の中でも人気が高い、テーブルと椅子のセット。使い込むほど木肌がなめらかになり、美しいツヤも出て、時とともに愛着が増していきます。写真のデザインで、寸法調整につきましてはご対応させていただきます。
※当選者様決定後の製作となります

2 音響熟成木材とコハルライトのコラボライト

特製和紙シートを組み立てると、桜の花びらが立体的にうきあがる素敵なインテリア照明器具「コハルライト」。さくら色と電球色に切替でき、2つの違う雰囲気が楽しめます。このコハルライトと音響熟成木材の手づくりスタンドをセットにした特別コラボアイテムです。

3 オーガニックワイン リースリング ベーレンアウスレーゼ 白

特別な年にだけ作られる、オーストリア・クレムスタールのデザートワイン。淡くゴールドを帯びて輝くイエローの色。華やかで甘い気品が漂う、熟してとろけそうな果実の香り。そして、幸福な余韻を長く残す、上品で繊細な甘口の味わいがお楽しみいただけます。

4 米粉マフィン コトリエ マフィン詰め合わせ

宮崎で空気がうまい家づくりを行われている建築工房結さんの体感スペース「kotorie」から届けられる米粉マフィン。国産米粉と卵、植物油、きび砂糖をベースに、添加物は最小限に抑え、無農薬や減農薬の野菜やフルーツを組み合わせて、丁寧に焼き上げられています。

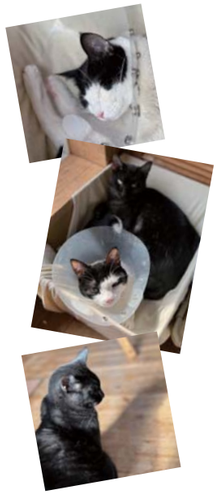
ご当選者の皆様の発表はプレゼントの発送をもって代えさせていただきます。

編集ほのぼの後記

いよいよ残りおよそ半年で、SAiNは発刊20周年を迎えます。つまりは次の次の号、いつの間にか時間も過ぎ、その時が近づいて参りました。会社設立当初から発刊を続けているSAiNですが、同様に会社も来年で設立20周年を迎えることとなります。2024年は、なんだかんだでアニバーサリーイヤーになりそうな予感です。

チロクロ日記

チロちゃん、少しずつ元気を取り戻してきています。実はクロルにも同じ症状が出てしまい、2匹とも病院通いが続いておりますが、クロルの方は比較的症状が軽く、今はエリザベスカラーも必要ない状態です。ただ、チロルは何度も病院に通っていることから、連れていかれる気配を察すると体がガチガチになり、ロフトの隅っこに引っ込んで緊張しまくっている感じです。やっぱり健康で過ごせるのが一番ですね。



来年は皆さんにとっても、私たちにとっても、新たな出会いや繋がりの輪が広がるような、そんな情報を届けられる紙面づくりを目指していきたいと思います！今年も一年ご愛読いただき、誠にありがとうございました！

SAiN編集部 浦上日章

KAIKEN corporation
◎お問い合わせはフリーダイヤルでお気軽に（9:00〜17:00 ※土日祝／休）カイケンコーポレーション株式会社
0120-874-814
●本社／〒814-0171 福岡市早良区野芥2-27-5
●電話／092(874)6110 ●FAX／092(874)6113
◎最新情報はWEBサイトでどうぞ　https://www.e-kaiken.com　カイケンコーポレーション

SAiN バックナンバーもご覧いただけます☞

●「空気がうまい家」「音響熟成木材」「幻の漆喰」「幻の漆喰ピュアケアウォール」「清活畳」はカイケンコーポレーション株式会社の登録商標です。●商標登録「空気がうまい家」登録第5700454号取得／「音響熟成木材」登録第4739348号取得／「幻の漆喰」登録第4739347号取得／「幻の漆喰ピュアケアウォール」登録第5672190号取得／「清活畳」登録第4827042号取得●「空気がうまい家」「音響熟成木材」「幻の漆喰」「幻の漆喰ピュアケアウォール」「清活畳」は正規取扱店でのみお取り扱いしています。類似品にご注意ください。お取扱い工務店等はWEBサイトでお確かめいただけます。

SAiN 2023 WINTER ISSUE vol.79　発行●カイケンコーポレーション株式会社　〒八一四〇一七一福岡市早良区野芥二の二七の五　電話〇九二(八七四)六一一〇
【季刊】年4回・3月・6月・9月・12月発行
© KAIKEN Co. All Rights Reserved.　※無断転載・複製を禁じます

お問い合わせは●カイケンコーポレーション健康自然建材 正規取扱店